

令和4年コウノトリ有精卵移動について

黒田将史
よこはま動物園

現在のコウノトリの野外個体数は、309羽（2022年10月末現在）と増加している。しかし、現在の野外個体群は大陸との遺伝的交流はなく、個体群の遺伝的多様性の維持を図る方策として飼育下からの遺伝的多様性に貢献する個体の放鳥は重要な手法の一つである。

コウノトリの野生復帰事業を進める、コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル(IPPM-OWS)には当園も参加している。この事業の一環で、有精卵の移動に当園では初めて試みた。

今回は当園のペアの第2クラッチの4卵を、2022年5月に野田市こうのとりの里へ移動し、托卵した。しかし予定日を過ぎても孵化せず、バックアップであった秋田市大森山動物園の卵を托卵した。うち1個が孵化し、放鳥が完了している。今後の方針としては、当園のペアの雌（No.12）が2022年7月に死亡したため、新規ペアを多摩動物公園から導入予定である。また、移動した卵の有精卵率や孵化率が低かったため、次回の繁殖期は新規ペアの産卵次第で、給餌内容の変更等を行い、有精卵の確率にどう影響するか検証を進めていく。